

第14回信濃川「水辺の楽校」開催！

9月26日に、つまりっ子ひろばにおいて第14回信濃川「水辺の楽校」が開催されました。水辺の楽校は、この時期に毎年行なわれているもので、その年の自然の状況がわかるとても自然観察です。秋晴れに恵まれ、今回は25名の参加で2種類のコースで自然観察をおこないました。各コース多くの収穫があったようです。自然豊かな十日町で、子どもたちにもっと信濃川に興味を持ってもらい、限りある自然を大切にしていってほしいと思います。

また、主催者の水辺の楽校活用協議会では、9月5日に特定外来生物であるアレチウリ駆除作戦を実施しました。これからはミヤマシジミの食草であるコマツナギの播種作業も実施予定で、積極的な活動を行なっています。

昆虫観察コース



→ アキアカネやベニシジミ、オオカマキリなど約30種類の昆虫を見つけることができました。子供たちは大きな網を持って必死になって昆虫の採取をしていました。



アオダイショウも
見つけました！

水生生物観察コース



↓
今回は、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている「アカザ」を発見することができました！とても貴重です。観察後、すぐに自然へ帰してあげました。他にもエビ、オニヤンマのヤゴ、カワゲラなどみつけることができました。



→ 子供たちはライフジャケットを着用して、熱心に水生生物をつかまえていました。今年は例年より多くの魚類もみつけることができました。気候やその日の河川の状況によってみつけられる水生生物は変わるようです。

水辺の楽校活用協議会の維持活動 ～アレチウリ駆除作戦～



→ 今年は32名の活用協議会メンバーなど多くのボランティアの方々が参加しました。例年少なくなってきたおり、成果があらわれてきたのでは…との声も聞かれました。

アレチウリの駆除はなんで必要なの？

アレチウリとは北アメリカ原産のウリ科の帰化植物で、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、平成18年に「特定外来生物」に指定されています。このアレチウリが大群落をつくり、在来植物を覆ってしまうと、在来植物は枯れたり弱ったりし、ついには減少してしまうなど、生態系に悪影響を与える可能性があります。そのため、適切な防除を行い、これ以上増加させない必要があるのです。

